

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

十一章 ①理論的な思想(物:場 c')②學問(物:場 c')③己を知る道(物:場 c')⇒からの関係:どんな①でも「④:不思議な劇を演ずる。②とは③である」(D1の至大化)⇒「⑤:卑近・俗なるものに道」(④的概念F)⇒E:⑤とは「⑥にとつては「非安心・不納得」(即ち「己を知る」)。故に「俗なるもの」とは、現實とは何かと言ふ事で『好信樂・風雅』となる」(Eの至小化)(③への距離不獲得:Eの至小化)⇒⑥宣長(△粹):②③への適應正常。

十二章

十三章

十四章

(物:場 c')

十一章:①理論的な思想(物:場 c')②學問(物:場 c')③己を知る道(物:場 c')

十二章:

十三章:

十四章:

E: [F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法]・・・「so called」 「Fと(△粹)との距離獲得」(Eの至大化)。

十一章:⑤とは「⑥にとつては「非安心・不納得」(即ち「己を知る」)。故に「俗なるもの」とは、現實とは何かと言ふ事で『好信樂・風雅』(Eの至大化)となる」。

十二章:十三章:十四章:

からの関係(D1の至大化)

十一章 どんな①でも「④:不思議な劇を演ずる。②とは③である」(D1の至大化)

十二章

十三章

十四章

F(言葉・概念)・・・

十一章:「⑤:卑近・俗なるものに道」(④的概念F)

十二章:

十三章:

十四章:

(△粹)

十一章:⑥宣長(△粹)。

十二章:

十三章:

十四章: